

公益財団法人日本バレーボール協会
2019年度第8回理事会（みなし決議）議事録

1. 理事会の決議があったものとみなされた事項の内容

第1号議案	第11期（2020年度）事業計画について
第2号議案	第11期（2020年度）予算について
第3号議案	組織の改編（事務局規程の改定）
第4号議案	重要な使用人の選任について
第5号議案	功労者I表彰決定について
第6号議案	特定費用準備資金の追加積立について
第7号議案	現下における大会開催の可否判断について

2. 理事会の決議があったものとみなされた事項の提案者
代表理事 嶋岡健治

3. 理事会の決議があったものとみなされた日
2020年3月19日

4. 議事録の作成に係わる職務を行った理事
代表理事 嶋岡健治

5. 理事総数19名の同意書
別紙の通り

6. 監事3名の異議がないことを証する書面
別紙の通り

2020年3月10日に、代表理事 嶋岡健治が理事及び監事全員に対して、理事会の決議事項である上記内容の提案書を発送した。

(1) 第 11 期（2020 年度）事業計画について

本年は、7 月 24 日より開幕する第 32 回オリンピック競技大会に向けて、長年準備してきた事をしっかりと実践する特別な年であり、バレーボール、ビーチバレーボール競技全カテゴリーにおいて、最高の成果を出すために総力を挙げて取り組んで行く決意である。

昨年を振り返るとワールドカップ大会をはじめ各種大会を加盟団体の皆様とともに開催させていただき、従来にも増して取り組みの範囲を拡大し、関係部署と連携できたことにより大きな成果を上げることが出来た。今後もバレーボールの価値を高める為の努力を惜しまずに、これらのサイクルを最大限、継続・推進することが重要となる。

事業計画では、「1. 強化」、「2. 財務改革」、「3. ガバナンス及びコンプライアンス強化・推進」、「4. 体罰・暴力・ハラスメント根絶に向けた取り組みの強化」を重点課題とし、実現に向け鋭意努力する。

※詳細は資料記載の通り

(2) 第 11 期（2020 年度）予算について

●2020 年度予算

【全体の収支】

収入総額は 2,274 百万円（前年は 3,164 百万円）、費用総額は 2,546 百万円（前年は 3,556 百万円）となり ▲272 百万円（前年は ▲393 百万円）と 4 年連続の赤字予算を計上している。

2019 年度は、ワールドカップ（男女）の日本開催と 4 スターのビーチバレーボール国際大会があったが、2020 年度は毎年行われるバレーボールネーションズリーグ（VNL）以外の大きな国際大会がないため、収入・費用とも前年度より大幅に減少が見込まれる。

2019 年度に続き大きな赤字予算となっているが、目前に迫った東京オリンピックまでインドア・ビーチともに全力投球する財政支出予算となっている。

なお、公益目的事業費率は 90.14%であり、この数値が 50%以上あることが公益財団としてのひとつの条件であるが、十分満たしている。

※詳細は資料記載の通り

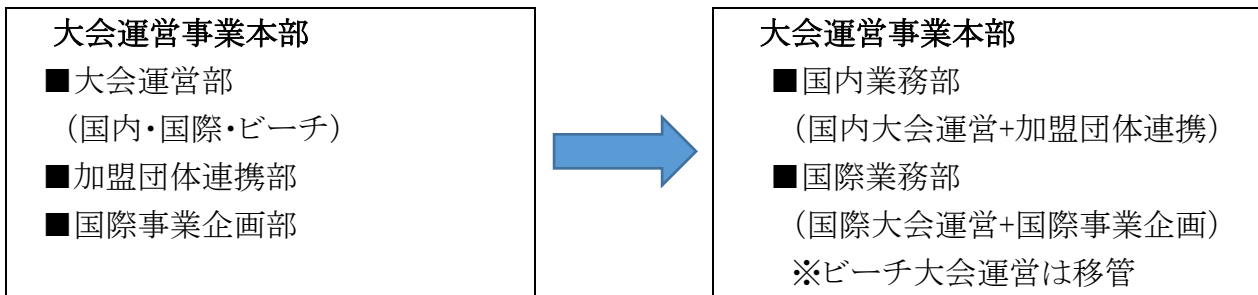
(3-1) 組織の改編について (2020年4月1日付)

①2019年4月1日付で、ビーチバレーボール事業本部を発展的解消とし、「選手強化事業」はハイパフォーマンス事業本部へ、「ビーチバレーボール大会の運営事業」は、大会運営事業本部に移管されたが、2020年4月1日でビーチバレーボール事業本部を再配置するとともに移管した2つの事業を再所管する。

②大会運営事業本部の業務を再編・集約し、「国内業務部」と「国際業務部」の2部体制とする。

(2019年8月1日)

(2020年4月1日付)



(3-2) 事務局規程の改定

上記組織改編に関わる事務局規程の改定を行う。

※詳細は資料記載の通り

(4) 重要な使用人の選任について

2020年4月1日付組織の改編に伴い、下記のとおり重要な使用人の選任をいたしたい。

(2020年4月1日付)
・紀伊良文氏
【旧】大会運営事業本部副本部長 (ビーチバレーボール担当) 兼 国際事業企画部部長
【新】ビーチバレーボール事業本部長 兼 ビーチバレーボール業務部長
・小田勝美氏
【旧】ハイパフォーマンス事業本部副本部長 兼 ハイパフォーマンス推進部ビーチバレーボール強化部長
【新】ビーチバレーボール事業本部副本部長

(5) 功労者 I 表彰決定について

功労者 I 表彰候補者 7 名について、表彰委員会にて審査を行い、理事会に推薦することを決定したため、承認願いたい。

【功労者 I】

① 功労者 I

- ア、 本会若しくは本会に加盟する全国的に組織されたバレーボール競技団体の役員又は本会の委員会委員及び協力社等の立場から、バレーボールの普及・発展に著しい功績のあった者で、原則として当該関係歴が 20 年以上ある者。
- イ、 全国的・国際的規模の競技会レベルの指導者としてバレーボールの競技人口の拡大又は競技水準の向上に著しい功労のあった者で、原則として当該関係歴が 30 年以上ある者。

氏 名	推薦団体
山根 武	日本ヤングクラブバレーボール連盟
	日本ソフトバレーボール連盟
不老浩二	(公財) 日本バレーボール協会
森田淳悟	(公財) 日本バレーボール協会
西川友之	富山県バレーボール協会
迫田 義人	(公財) 東京都バレーボール協会
長谷川 吉秋	(一社) 石川県バレーボール協会
山野上 聖一	大阪府バレーボール協会

※詳細は資料記載の通り

(6) 特定費用準備資金の追加積立について

●特定費用準備資金の追加積立（4 億円）について

（提案理由）

公益認定法でいう財務 3 基準のうち「収支相償基準」を 2018 年度において満たしておらず（344 百万円の黒字）、早急な解消策を内閣府から求められている。

2019 年に開催されたワールドカップの盛況等により協会全体で黒字に転換することが見込まれており、収支相償基準を確実に満たすために特定費用準備資金 400 百万円の追加積立をご承認いただきたい。

(4 億円積み立ての内容)

下記 ① 2 億円、② 2 億円からなる。

① すでに承認を受けた積立 6 億円について限度額までの積立 (追加 2 億円)

2019 年 10 月 8 日に開催された 2019 年度第 5 回理事会 (定例) にて 4 億円の積み立ての承認を得ているため、限度額一杯の 2 億円の追加積立を行いたい。

② 国際大会開催目的の特定費用準備資金の積立 (新規 2 億円)

2024 年度までに行われる国際大会開催のための資金の一部として 2 億円を積み立てたい。

(7) 現下における大会開催の可否判断について

新型コロナウイルスの感染拡大により、JVA 主催大会の開催についても開催の中止等多大なる影響が出ている。令和元年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会ファイナルラウンドも、お客様や選手、スタッフの健康・安全を第一義に考え中止と言う苦渋の選択をした。今後、状況変化に応じた迅速なる判断が求められる中、大会開催の最終判断については、業務執行理事会に一任いただき、理事会へは報告事項として取り扱いたい。

当該の 7 件の議案につき、2020 年 3 月 19 日までに決議に加わることのできる理事の全員から文書により、各項目に対して同意する旨の意思表示を、また監事 3 名から本件について異議が無い旨の意思表示を得たので、定款第 43 条に基づき、当該提案を承認可決する旨の理事会決議があったとみなされた。

以上のとおり、理事会の決議があったとみなされたことを明確にするため、この議事録を作成し、議事録作成担当者が記名押印する。

2020 年 3 月 19 日

公益財団法人日本バレーボール協会
代表理事 嶋岡健治